

解像度

不可逆とは、
触れ方の精度が変わることである。

見えた、という出来事は消える。
残るのは、
触れ方の変質だけだ。

世界は変わらない。
接触の密度だけが変わる。

それは、
賢さでも、感受性でも、優劣でもない。

正しさを言い当てる能力でも、
他者を測る視力でもない。

むしろ、
通過できていた摩擦が、
通過できなくなる現象に近い。

精度が上がると、
言葉は意味よりも配置として知覚される。

沈黙は欠如ではなく、
空間の密度を保つ構造として立ち上がる。

問題は誰が正しいかではない。
接触が、どの粒度で行われているかだ。

精度は、
接触を制限する。

同時に、
粗さからの影響を遮断する。

これは選別ではない。

単に、
粗度に身体が合わなくなるだけだ。



触れ方が、戻らなかった。



Edition — 価値観の航路
別景：解像度

著者：美学思想家 古川玲奈
発行：Raffiné
2026